

私のすすめるこの1冊

相澤伸幸 (教育学科 准教授)

『眼の海』 辺見庸 著

今年でルソーは生誕 300 年を迎える。したがって教育学の観点から見れば、2012 年はルソーの年である。新たなルソー全集の刊行がフランスで進められ、国内外でその研究機運が高まっている……、そのようなことでも書こうかと思ったが、今さらルソーをすすめても当たり前すぎるので、別の本にしようかと考えた。そして選んだのが、昨年末に刊行された辺見庸の詩集『眼の海』である。

宮城県石巻市出身の辺見が、3.11 後の思いを綴ったのが本書である。記者として新聞協会賞を、小説家として芥川賞を、作家として講談社ノンフィクション賞を、詩人として中原中也賞を各々受賞してきた言語表現のプロである彼が、語り得ぬものを語ろうとして、あえて「詩」という形式を選んだ理由や、そして言い表しにくい震災をどのように伝えるのか、そこに関心があった。

詩というと、どうしてもある哲学者の言葉を思い出す。詩を書くことは極めて文化的な行為であったはずだが、その啓蒙の歴史の行き着いた現代の状況を重ね合わせるならば、むしろ野蛮なものであり、自己満足的に世界を観照して自己のもとにとどまっているだけではないか、そのような意味の言葉である(アドルノ『プリズメン』)。だが、それこそ自己言及的な隘路に迷い込んでいるという思いが私にはある。たとえば、栗原貞子が 1945 年 8 月 6 日の広島之夜を描いた詩などは、野蛮なものでも何でもなく、圧倒的な絶望の中でも文化的な営為が成り立っている。

さて、震災を詩で表現するということに文化的な希望があるかもしれないと思い縋いてみたが、内

容はかなり難解である。想像力が追いつかず、むしろ理解を拒むかのようである。それでも何とか読み進めるが、さらなる虚無へ向かおうとする彼は、抽象度を増しながら、世界、主体、言葉と格闘する。そして最後の詩に至り完結を迎えるが、読後、何だか「いずい」感覚を覚えた。なんだか結論を急ぎすぎているのではないか。

そんなとき、ふと芭蕉の言葉を思い出した。それは、其角の詠んだ発句に対する批評である。同道する去来にはすばらしいと思える句を、芭蕉は認めない。その理由を芭蕉は、「謂ひ應せて何か有る」(言い尽くして何の意味があるのか)と言った(向井去来『去来抄』)。つまり、連歌において発句では、隅々まで言い尽くしてはならないというのである。蓋し奥義であろう。

胆に銘ずべきことなのかもしれない。いま必要なのは、これから始まる長い営為の発句だということ。現代において詩を書くことがたとえ野蛮であろうと、語り得ぬものであろうと、まずは始めなければならぬ。しかしそれで言い尽くせるものでも何でもなく、これから連綿と続く営みの、ほんの発句に過ぎないのだと。悼みや不安や苛立ちや怒りなどを、まだ無理に言い尽くす必要はない。大切なことは、言葉と行為の統一された挙句まで詠み続けることであり、いまはまだ発句なのであると。

そのようなことを考えさせられた1冊であった。

『眼の海』 辺見庸 著

発行所: 毎日新聞社 発行年: 2011 年

ISBN: 9784620320731 購入手続き中

図書館からのお知らせ

ミニ企画展 「写真の歴史」

附属図書館にて、ミニ企画展「写真の歴史」を開催中です。
本学美術科の安江勉先生にご協力いただき、先生の写真作品や、図書館所蔵の写真集をご紹介します。写真集を通じて、写真の歴史を知る旅に出ませんか？

期間：平成24年1月26日(木)～2月14日(火) ※休館日を除く

時間：図書館の開館時間と同様

場所：附属図書館1階ロビー

展示の様子



「図書館リクエストウィーク」コーナー 終了しました

1月24日(火)をもって、「図書館リクエストウィーク」コーナーの展示を終了しました。期間中には、9冊の貸出がありました。

グループ学習室の前ということもあってか、立ち止まって手に取る方も多く見られました。たくさんのご利用、ありがとうございました。

今後はコピー機前の新刊コーナーに一定期間並べた後、それぞれの配置場所に並べます。ぜひご利用ください。

また、今回はリクエストしなかったという方も、次回のリクエストウィーク(時期未定)をお楽しみに！

*** 節電実施中です ***

附属図書館では、冬の電力不足に備え、学習に支障のない範囲で照明を調節するなどの節電対策を実施中です。ご協力よろしくお願いたします。



***** 春季休業に伴う長期貸出について *****

下記のとおり長期貸出をしますので、ご利用ください。

対 象	院 生 ・ 教 職 員	学 部 生
貸出期間	2012年1月16日(月) ～2012年3月14日(水)	2012年1月28日(土) ～2012年3月28日(水)
貸出冊数	1 2 冊	7 冊
返却期限日	2012年4月11日(水)	

- * 視聴覚資料は除きます。
- * 長期貸出図書は貸出更新（延長）はできません。
一度返却してから翌日以降貸出の手続きをとってください。
- * 一般利用者・卒業生の方の長期貸出はできません。
- * 卒業・修了予定者の方の返却期限日は3月9日(金)です。
下記の「卒業・修了予定の方へ」もお読みください。

***** 卒業・修了予定の方へ *****

1. 貸出期間の延長

卒業・修了予定の方の貸出は2012年3月9日(金)までとなっています。それ以降も貸出を希望される場合は、所定の手続きを行うことによって、2012年3月23日(金)まで延長できます。カウンターでお尋ねください。

2. 卒業後も図書館を利用される場合

一般利用者としてご利用いただけます。卒業後の利用案内および利用証の申請書は卒業時に配布します。3月23日(金)の卒業式・修了式の日から利用証を発行しますので、ご希望の方はカウンターでお申込みください。3月中ならば、お申込み当日に利用証をお渡しすることも可能です。なお、卒業後は本学の学生と利用条件が一部異なりますのでご注意ください。

2012年4月2日(月)以降の手続きには、①住所確認書類、②卒業生と確認できる書類(卒業証書または卒業証明書等)が必要です。利用証は後日郵送になります。

※2012年3月末で本学を卒業・修了しない方で、貸出中の図書の返却期限日が3月9日(金)になっている方は、2012年4月11日(水)に変更されます。図書館への申出は不要です。

～ 図書館開館スケジュール ～

2012年 2月

日	月	火	水	木	金	土
			●	●	●	▲
5	6	7	8	9	10	11
休	●	●	●	●	●	休
12	13	14	15	16	17	18
休	●	●	●	●	●	▲
19	20	21	22	23	24	25
休	●	●	●	●	●	休
26	27	28	29			
休	●	●	●			

2012年 3月

日	月	火	水	木	金	土
				▲	▲	休
4	5	6	7	8	9	10
休	▲	▲	休	▲	▲	休
11	12	13	14	15	16	17
休	休	▲	▲	▲	▲	休
18	19	20	21	22	23	24
休	▲	休	▲	▲	▲	休
25	26	27	28	29	30	31
休	▲	▲	▲	▲	▲	休

<カレンダーの見方>

日付	9:00～21:00
●	
日付	9:00～17:00
▲	
日付	休館日
休	

- 2月25日(土)は大学入試前期試験のため休館
- 3月7日(水)は館内整理日のため休館
- 3月12日(月)は大学入試後期試験のため休館

小学校音楽科における鑑賞教材への効果的アプローチ

小笠原真也

小笠原真也(音楽科 准教授)

京都教育大学紀要 No.119 pp.169-177. 平成23年9月

平成20年に改訂され、平成23年4月から全国の小学校において全面実施された学習指導要領には〔共通事項〕が新設されましたが、これは音楽科においては「歌唱」、「器楽」、「音楽づくり」、「鑑賞」の4つの活動の共通の支えとなる事項です。

学習指導要領の「鑑賞」について第5、第6学年を例にとると、その指導内容として、「曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと」、「音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと」、「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること」とあります。また第5、第6学年の〔共通事項〕には聴き取り感じ取るべき要素として「音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なりや和声の響き、音階や調、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素」と示されています。教員はこれらの内容を踏まえつつ授業を展開しなければなりません。

「鑑賞」活動の効果的な授業展開のためには、教材を分析することによってその構造を知り、構成要素の関係性について理解を深めておくことが非常に有効です。楽曲分析を行うことで鑑賞教材に対してさまざまな視点からのアプローチができるため、授業運営も臨機応変の対応が可能となり、また説明・解説する言葉も説得力を持つようになると考えられるからです。これは例えば、演奏家が或る作品を表現する際に楽曲分析を行うことでその作品をより深く理解するのと同じ事なのです。

本研究では、学習指導要領における指導されるべき事項と、新設された〔共通事項〕との関連から、鑑賞教材の音楽的内容を検証する事によって、より効果的な音楽鑑賞授業のための提案をすることをめざしました。1例として第1学年の教科書に掲載されているL.アンダソン作曲の「おどる子ねこ」を分析し、音楽鑑賞教材としての適切性を検証しています。

本タイトルの論文は京都教育大学紀要119号に掲載されています。

京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/>にも公開されています。

●京都教育大学附属図書館ホームページはこちらから <http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版図書館ホームページはこちらから

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/m/mhome.htm>

右記のQRコードからも
アクセスできます



京教図書館 News No.137(2012年2月号)

発行日：平成24年2月1日

編集発行：京都教育大学附属図書館

内容に関するお問い合わせ先：library@kyokyo-u.ac.jp